

ウメシロカイガラムシを適期に防除することで クワシロカイガラムシを同時防除できる殺虫剤

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－モモ－病害虫防除

2 担当者名

中村傑、高橋佳大

3 要旨

モモ栽培において、ウメシロカイガラムシ（以下「ウメシロ」という。）とクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」という。）は、形態が似ており各農家で防除適期を判断するのは困難であるが、ブプロフェジン水和剤（商品名：アプロードフロアブル）、又はスピロテトラマト水和剤（商品名：モベントフロアブル）、又はスルホキサフロル水和剤（商品名：トランスフォームフロアブル）をウメシロの防除適期に散布することでクワシロも同時防除できる。

- （1）クワシロは、ウメシロより歩行幼虫の発生が5～10日程度遅く、2種のカイガラムシは防除適期が異なる。
- （2）2023年に試験した結果、ウメシロ防除適期（歩行幼虫発生期）にこれら殺虫剤を散布することでウメシロとクワシロを同時防除することができた（表1）。
- （3）カイガラムシ類は、虫体がカイガラで覆われると防除効果が低下するため、散布時期が遅れないように注意する。また、散布ムラがないように十分量を使用する。

表1 カイガラムシ類に対する各種殺虫剤の防除効果（福島市飯坂町、2023年）

供試薬剤	希釈 倍数	ウメシロカイガラムシ 雌成虫数	クワシロカイガラムシ 雌成虫数
		処理79日後	処理65日後
ブプロフェジン水和剤	1,000	1.0 (5.7)	0 (0)
スピロテトラマト水和剤	2,000	1.0 (5.7)	1.0 (5.5)
スルホキサフロル水和剤	2,000	3.7 (20.8)	1.3 (7.3)
無処理区		17.7	18.3

※1 試験は、果樹研究所内モモほ場（品種：「あかつき」）1区1樹3反復で実施。試験区の供試薬剤は、5月2日に散布し、薬液風乾後、ウメシロ（福島市飯坂町個体群）の卵、約150卵を3新梢それぞれに放虫し、5月15日にクワシロ（福島市飯坂町個体群）の卵を同様に放虫。調査は、7月21日に全ての新梢を切り取り、雌成虫数を計数。

※2 平均（対無処理比）を示す。
対無処理比＝処理区の密度/無処理区の密度×100

4 成果を得た課題名

- （1）研究期間 令和5年度
- （2）研究課題名 植物検疫体制の構築委託事業
〔植物検疫上の要求事項を満たすための体制の構築委託事業〕

5 主な参考文献・資料

- （1）伊藤慎一，オウトウのウメシロカイガラムシに対するスルホキサフロル水和剤とブプロフェジン水和剤の防除時期の検討，北日本病害虫研究会報，p.126，2023。（講要）